

夏になりました、草の勢いがすごいです。もう畑が草原のようになってしまう。みなさんのところはどうか？草をむしるときは草に名前があったなんて考えもしません。雑草という草はないんだという言葉に触れた事があります。ドクダミも同じように抜いているわけですが、十薬とって薬になるのだそうです。うちでもドクダミ茶にして飲んでみました。草であるときに見ているときは邪魔な存在でしかなかったものが、意外にも薬だったのだと知るとそれがまた価値のあるものへと変わってゆく。人間というものは勝手なもので、都合が悪いとそれを邪魔にして、それが有用であると宝になる。そんな一面も教えてもらうことです。

植物、草には皆名前があり、もちろん樹木にも名前があります。残念ながら私たちはそれを知らないだけなんだということを、改めて気づかせていただくことです。あれはセイタカアワダチソウ、ツユクサ、コニシキソウ、アザミ、シロツメクサ等みんな名前があることに驚きます。まだまだ知らないことがたくさんあるのだと、そんなことを感じます。

知らないことは実はとても多いように思います。そして、また知らないことにもっと謙虚にむきあってもよいのかなと感じます。親の恩についても同じことが言えようかと思えます。親になってみてこんなに世話になったんだなあ、今にいたるまで現在進行形で心配をかけているのだなあということを知ります。

知恩という言葉があります。恩を知ることで、感謝するという意味です。うちはそうではありませんでしたが、高校時代の雨降りの日とかよく車で送ってもらった。お弁当を高校な

り会社なり毎日親に作ってもらった。塾の送り迎えを毎日してもらった。毎日洗濯、掃除、食事を作ってもらった。金銭面で多大に負担をかけた。ふだん当たり前にお世話になっていることは実はあたりまえのことではないんですよね。感謝する心より不満の心があるとしたら問題はこちらにあるとしか思えません。お世話になっていること、なったことを数え上げればきりがありません。みなさんはどうでしょうか？

知らないということを仏教では無明といいます。道理に暗いありさまとして根本煩惱の一つ、貪、瞋、痴の痴、愚痴に数えます。知らないでいることがあきらかになるということが、無明の闇が破られる、ということになります。闇のような所にいるときに先を照らす^{ともしび}灯、あかり、仏様の智慧にあうことで、あきらかになってゆく、あかるくなってゆくことが導かれることとしてある。仏様を知らないということが、ひとつきっかけとなり、仏様のはたらきを知ってゆくものへかわってゆくということがあるのでないかと思います。親がいたから自分がある。つながりの因縁を知ること、その恩を感じるわけですよね。

植物の名前を知ることから話をさせていただいたことですが、知るということで、これまで考えもしなかったこと、面倒であるとみていたことに、ひとつひとつ名前があったり意味合いがあったりすることを教えていただきます。それはともすると感動であり、これから生きていく上で生きる支えとなってゆく大切な事です。